

施策評価シート（評価実施年度：平成27年度）

事務事業所管部局長 (幹事部局)	教育長 藤原孝行	電話番号	0852-22-5401
---------------------	----------	------	--------------

①施策の目的等

施策の名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
目的	〇幼保小中高が連携を図りながら、発達段階に応じたきめ細かな教育を推進することにより、児童生徒が、心身の健康と確かな学力を身につけ、社会の一員として自立して生きていけるよう育みます。

②成果参考指標の目標（実績）と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	数値目標	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
中学校3年生で数学の勉強は好きだとする生徒の割合	目標値		60.00	60.00	60.00	60.00	%	平日に家や図書館で全く読書をしない児童生徒の割合（年間・小学生）	目標値		15.00	10.00	10.00	10.00	%
	取組目標値								取組目標値						
	実績値	55.40	50.20	54.00	55.10				実績値	17.90	18.40	18.50	17.90		
	達成率		83.70	90.00	91.90				達成率		77.30	15.00	21.00		
平日に家や図書館で全く読書をしない児童生徒の割合（年間・中学生）	目標値		27.00	20.00	20.00	20.00	%	子どもの体力値	目標値		96.50	96.50	97.50	97.50	%
	取組目標値								取組目標値						
	実績値	30.80	32.70	30.30	29.20				実績値	95.50	95.90	95.40	95.30		
	達成率		78.90	48.50	54.00				達成率		99.40	98.90	97.80		
定性目標	平成24年度～平成27年度														
成果参考指標の実績等の補足説明（任意記載）	必要に応じて記載（任意記載）														

③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点で施策目的に対する現状 (客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況)	<ul style="list-style-type: none"> 〇平成26年度全国学力・学習状況調査の国語、算数・数学の平均正答率について、全国平均を100とした場合の県の数値は、小学校は平成25年度調査95.6から98.6に上昇したが、中学校は100.4から99.9とやや低下した。 〇高卒就職内定率は、年々向上（H26 99.5%）し、県内就職率は高い水準を保っている（H26 79.2%）。 〇特別支援学校卒業生の一般事業所等への就労率は27.4%であったが、一般就労を希望した者の93.2%が一般就労した。 〇「体力・運動能力等調査」結果では、小学校では男女とも全国平均より高いが、中学校では男子が全国平均並みで、女子は全国平均より低い。体力値に歯止めはかかっているが、県のピーク時（S61）と比較すると依然低い状況で、女子は、小学校から中学校、高校となるにつれ低くなっていく傾向が見られる。 〇運動離れや運動をしない子の二極化による児童生徒の体力や運動能力が低下している。 〇県立学校の耐震化率は98.3%（H27.4.1現在）で、老朽化が著しい建物の改善、生徒急増による狭小化対策など必要な機能の整備を計画的に進めている。 〇私立学校は、一定水準以上の教育内容が維持されているが、少子化の影響等から学校経営は厳しい状況にある。
---	---

④総合的な評価

評価時点での総合的な評価	判断	その理由
A:順調に進んでいる B:概ね順調に進んでいるが見直す点もある C:あまり順調に進んでいない	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇中学校3年生で数学の勉強は好きだとする生徒の割合は、依然全国平均に比べ低い状況にある。全国学力・学習状況調査結果から見えた課題や改善方を学校全体で共有し、組織的な授業改善につなげる取組みが十分に進んでいない。 〇公立小中学校の千人当たりの不登校児童生徒の割合は全国平均よりも高いが、実数においては低減を実現できた。 〇子どもの運動離れに対応するため、学校の昼休み等を活用した子どもが親しみやすいレクリエーションの要素を取り入れた運動プログラムの実施などの取組が行われ始めている。 〇「家庭や図書館で全く読書をしない児童生徒」はまだ一定割合存在するが、子どもの読書離れは改善傾向にある。

⑤課題の認識

(1) 平成27年度末の施策目的の達成状況（予測）	判断	その理由（「総合的な評価」の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載）
A:達成できる B:概ね達成できる C:達成は困難	B	
(2) 施策の目的達成に向けての課題		<ul style="list-style-type: none"> 〇全国学力・学習状況調査をより活用できるようにするため、県学力調査の実施時期を見直し、その役割を明確にして、学力調査を活用した新しいPDCAサイクルを構築していく必要がある。 〇子どもたちが自己有用感を感じることのできる学級集団づくりに取り組むなど、学校全体で不登校の問題に取組み不登校（傾向）の児童生徒への働きかけを行っていく必要がある。 〇運動離れや運動をしない子の二極化により児童生徒の体力や運動能力が低下していることや、女子の運動離れや運動部活動離れがすすんでいることから、授業において達成感や充実感を味わえるような教材の研究、指導方法の工夫が必要である。 〇読書習慣の定着は就学前から行うことが有効であるが、未就学児に対して行う絵本の読み聞かせや親子読書の効能について十分周知されていないことから、未就学児の保護者に対し、絵本の読み聞かせや親子読書の普及を図る必要がある。

⑥今後の取組みの方向性

課題解決に向けての今後の取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 〇しまねの学力育成推進プランを着実に進めることにより、子どもたちが学習への意欲を高めていけるよう授業の改善を図る。併せて全国と同時期に行っていた県学力調査を、年度の前半から後半に移行することにより、全国学力調査結果を生かしたPDCAサイクルを機能させる。 〇不登校（傾向）児童生徒に対する学校及び関係機関の取組について、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子どもと親の相談員、教育相談員などと情報共有を図り、あらゆる制度や機会を通じて積極的に関わり合い、早期対応や未然防止に努める。 〇楽しみながら運動に取り組むことができるようなプログラムの活用・普及を図る。 〇指導主事が全小中学校を訪問して行う体育授業への指導の充実や、女子の運動離れに対応した教材の工夫などにより授業の改善と授業力向上を図る。 〇親子で読書がなされるよう推進するため、市町村のイベントや未就学児の保護者が集まる機会等を利用して、保護者等に向けて継続的に広報活動を行う。
---------------------	---

施策評価シート別紙(評価実施年度:平成27年度)

施策の名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
-------	-----------------------

②総合発展計画に定める成果参考指標の目標(実績)

項番	指標名等	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
1	中学校3年生で数学の勉強は好きだとする生徒の割合	目標値		60.00	60.00	60.00	60.00	%
		取組目標値						
		実績値	55.40	50.20	54.00	55.10		
		達成率		83.70	90.00	91.90		
2	平日に家や図書館で全く読書をしていない児童生徒の割合(年間・小学生)	目標値		15.00	10.00	10.00	10.00	%
		取組目標値						
		実績値	17.90	18.40	18.50	17.90		
		達成率		77.30	15.00	21.00		
3	平日に家や図書館で全く読書をしていない児童生徒の割合(年間・中学生)	目標値		27.00	20.00	20.00	20.00	%
		取組目標値						
		実績値	30.80	32.70	30.30	29.20		
		達成率		78.90	48.50	54.00		
4	子どもの体力値	目標値		96.50	96.50	97.50	97.50	%
		取組目標値						
		実績値	95.50	95.90	95.40	95.30		
		達成率		99.40	98.90	97.80		
5	不登校児童生徒の割合(年間)	目標値		1.25	1.19	1.15	1.10	%
		取組目標値						
		実績値	1.41	1.33	1.41	1.32		
		達成率		93.60	81.50	85.30		
6		目標値						%
		取組目標値						
		実績値						
		達成率						
定性目標1								
定性目標2								